

日本学術会議 臨床医学委員会 感覚器分科会（第26期・第1回）
議事録

日 時：令和6年5月13日（月） 19:00～20:00

場 所：Web会議

出席者：寺崎浩子、相原一、飯田知弘、川崎良、五味文、外園千恵、高橋政代、根岸一乃、松本有、山唄達也 各委員

欠席者：なし

議 事：

1. 寺崎浩子第二部会員が発起世話人となり、臨床医学委員会の中に感覚器分科会が発足したこと、当分科会の設置提案書を供覧し、学術会議の第一部（人文・社会科学）、第二部（生命科学）、第三部（理学・工学）の領域横断的な活動を求められていることの説明があった。

2. 役員（委員長、副委員長、幹事）の決定

委員長に寺崎委員、副委員長に山唄委員、幹事に五味委員と松本委員を選出した。

3. 第26期の活動方針について

1) 市民公開講座の開催について

- 来年1月を目標に、市民公開講座を開催することを検討する。
- マスコミの取材を受けやすいことなどを考慮して、日本学術会議講堂での開催を第一候補とする。
- テーマの候補として、小児、高齢者、働き世代など、どの世代にターゲットを絞るかが、まずは検討課題となる。高齢者の健康は社会的に喫緊の課題で関心を引きやすく、また話題となる障害も豊富である。障害としては、難聴、嗅覚障害、嚥下障害、発声障害、近視、老視、フレイルなどが候補となる。健診やスクリーニング、セルフチェックなどに焦点を当てた切り口も検討する。学術会議主催であることの意義も鑑みる必要があり、引き続きメール等で検討を行っていく。

2) 領域横断的なシンポジウム等の開催について

- 学術会議の第一部（人文・社会科学）、第二部（生命科学）、第三部（理学・工学）の領域横断的なシンポジウムの開催や提言の発表などを模索していく。

4. 今後の開催日程等について

- 今期は定期的に会議を開催することとし、次回は改めてメールにて日程調整をする。
- 次回は来年開催の市民公開講座について詳細を検討する。

5. その他

耳鼻咽喉科の連携会員推薦者が優秀な科学的業績やアカデミックな活動があるにもかかわらず第26期の選考に漏れたため、次期以降も感覚器分科会の活動を継続していくためには、選考基準の調査とそれに基づく然るべき対策が必要との意見があった。

以上